

## 日本原子力学会バックエンド部会による ICRP2023 国際シンポジウムサテライトイベント開催について

## 開催趣旨

第7回国際放射線防護委員会国際シンポジウム（ICRP2023）が11月6日～9日に東京で開催される。放射線防護に関わる国際的機関からの代表者や世界中の著名な専門家が一堂に会し、次期主勧告に向けた本格的な議論を行う予定であり、我が国の放射線安全基準策定においても重要な意義をもつ会合である。これに合わせてシンポジウム実行委員会のホスト機関である量子科学技術研究開発機構（QST）は、ICRP2023参加のために来日した海外専門家を交えた様々なイベントの企画を関係者に呼び掛け、サテライトイベントと称しての開催を奨励してきた。

日本原子力学会バックエンド部会（以下、部会）は、放射線防護と原子力安全の考え方、特に廃棄物の管理・処分に関わる放射線安全の確保の考え方についての共有、意見交換が可能な貴重な機会と捉え、国内外の放射線防護の専門家を交えるサテライトイベント（11月11日）を主催することとした。会議の運営は部会の運営小委員会が行う。また、立案にあたっては、ICRP 主委員会委員甲斐倫明殿（日本文理大）を通じて関連する ICRP 委員にイベント開催の意義、重要性を確認頂いた。

背景として、ICRP では現在、TG97 報告書(Radiological protection in Surface and Near-Surface Disposal of Solid Radioactive Waste)を策定中である。これは、Publication 81「長寿命放射性固体廃棄物の処分に適用する放射線防護勧告」の浅地中処分にに関する後継文書の位置付けであり、Publication 122「長寿命放射性固体廃棄物の地層処分における放射線防護」と対をなす。現在 TG97 報告書案は、パブコメ期間を終えた(2023/4/7)ところである。これらのドキュメントには廃棄物処分に關する放射線防護の概念と原則とその適用の考え方は示されるが、事業への実装にかかる具体的方法に言及しているものではない。

部会としては、我が国の廃棄物処分に關する事業者の経験や見通し、規制の現状等について、ICRP メンバーおよびシンポジウム出席者に認識して頂くとともに、ICRP における防護の考え方および我が国の放射線安全の確保の在り方について意見交換することで、相互理解を深める端緒となると期待するものである。現状では、浅地中処分は既に規制基準が整備され、許認可審査が順次進んできた一方で、地層処分は規制基準の策定が始められようとしているところであり、事業者は包括的技術報告書（セーフティケースに相当）の取りまとめやサイト選定のための調査を進めている段階にある。ICRP メンバーを招いて部会が主催・公開する本会合において、規制者、事業者が、それぞれの経験から放射線防護の概念と原則を実装する場における悩み（課題）を共有し、深掘りできれば、部会員も含めた広い関係者にとって興味深い交流の試みになる。本会合の開催については、ICRP2023 の関連イベントとして参加募集がなされる。

## 会議内容

我が国の廃棄物処分の防護・長期の不確実性を題材とした意見交換の場として、講演とパネルディスカッションの形式をとる。イベント全体の進行役は部会から選出する。ICRP の報告内容や規制の考えに対し、事業者からは是非かや、意見する場とするのではなく、今後の事業者の実装や規制の取り組みに役立つような意見交換の組み立てになればよい。タイトル案は、以下のとおり。講演案についても示す。

## ・イベントタイトル：

（固体）放射性廃棄物処分に關する放射線防護～長期の不確実性への対処を考える

Radiological Protection in Radioactive Waste Disposal - How we manage long-term

uncertainties?

・講演題目と演者案（順不同）：

- ①ICRP 勧告の検討動向、TG97 座長 John Takala 殿 (Pub122 と TG97 報告書の内容を中心に紹介頂く)
- ②我が国における放射性廃棄物処分に関する規制、規制庁原子力規制部審査 G を予定
- ③地層処分における閉鎖後長期の放射線安全の確保、NUMO 梅木博之殿、山田基幸殿が窓口
- ④浅地中処分における閉鎖後長期の放射線安全の確保、JNFL 佐々木泰殿、宮内善浩殿が窓口（NPO 放射線安全フォーラムでの講演内容等を想定）

・パネルディスカッション：

不確実性への対処について放射線防護の観点で意見交換する。パネリストは講演者を想定している。

論点を絞るため、ワードの選定は引き続き関係者で議論、調整する。現時点で例えば、地層処分における実装に向けた課題（長期の不確実性や最適化など）を例示してもらい、これを受けて、浅地中処分の経験をもとにした関連事例（許認可等で公開されているものに限る）を紹介する。その上で、規制庁からもルールや審査における考えを伺うとともに、最後に ICRP メンバーからも何か発言してもらう、といった流れである。

モデレータには、ICRP での議論や動向に詳しい処分の専門家を部会から依頼する。

その他

・イベント概要

主催：日本原子力学会バックエンド部会

共催：ICRP2023 実行委員会 (Executive Committee of ICRP2023)

協賛予定：NUMO、電力中央研究所、規制庁を予定

場所：グランドニッコー東京 29 階 銀河 (330 m<sup>2</sup>)

日時：11 月 11 日 (土) 9:30-12:30 頃を予定

形式：ハイブリッド 対面 (スクール 90 名) + オンライン聴講

言語：検討調整中、オンライン通訳を予定

・現時点の主な関係者（敬称略）

坂本義昭 (2023 部会長)・部会運営小委員会委員、佐々木隆之 (前部会長)

甲斐倫明 (日本文理大/ICRP 主委員会委員)、神田玲子 (QST/シンポジウム実行委)

John Takala (TG97 主査)

梅木博之・山田基幸 (NUMO)、佐々木泰・宮内善浩 (JNFL)、杉山大輔 (電中研)、規制庁

・予算

支出：サテライトイベント開催に必要な費用は、主催者である部会が負担することとなっている。45 万程度 (会場+通訳)

収入：一部団体からの協賛金 (NUMO、電中研)、参加費、部会予算等